



三月十九日

米國華盛頓府開設地球上子午線一定ノ萬國公會ハ委  
負ヲ派遣ス

内務陸海軍文部農商務五省稟候

今般米國華盛頓府ニ於テ地球上一定ノ子午線零点  
并計時普通法設定ノ為メ公會開設ノ義ニ付全國ヨ  
リ照會申越候趣ヲ以テ別紙之通外務卿ヨリ内務卿  
ハ照會有之然ルニ右ハ五省ハ關係之事件ニ付内務  
卿ヨリ照會ノ上五省ヨリ委員差出會議為致候處別  
紙意見書之通申出候右ハ學術商務ハ勿論施政上ニ  
モ巨多ノ關係有之候ニ付委員申出之通到底加入セ  
サルヲ得ス既ニ加入候トキハ從テ委員ヲモ差出サ  
ルヲ得ス然ルニ外務卿照會之趣ニテハ公使館負

ヲ以テ委員ニ充テ可然趣ニ候得共右ハ學術上ニ関  
 シ候事故公使館員ニテハ固リ辦理難致義ニ付委員  
 意見書之通適任ノ者三名ヲ特別ニ委員トシテ派遣  
 相成候様致度存候依テ外務卿照會書及委員意見書  
 并委員派出費用概算書相添為御参考ウ工ニス万國  
 公會演說書ヲモ差加此段相伺候也十六年三月一日  
 伺ノ趣左ノ通外務省ハ相違置候條追テ委員一名派  
 遣可相成ニ付人名取調兼テ可申出事十六年三月十  
 九日  
 但費用ノ義ハ更ニ取調可伺出事

委員派出費用概算書

銀貨五千貳百五拾圓

金六千六百五拾四圓

外國旅費概算

但奏任官三人各從者壹人宛召連自内地至米國

華盛頓府往返旅費

壹人當リ内譯

銀貨千七百五拾圓

金貳千貳百拾八圓

旅費

金貳百五拾圓

銀貨六百六圓

支度料

銀貨三百六拾圓

銀貨四百八拾四圓

銀貨三百圓

自内地至米國桑港  
往返船賃  
但片道三百〇三圓

自桑港至華盛頓府  
往返汽車賃  
但片道百八拾圓

從者壹人前同斷  
船賃  
但片道貳百四拾貳圓

從者壹人前同斷  
汽車賃

分類

但片道百五拾回  
日當百六拾日分  
但一日貳圓三拾錢宛

金六百圓  
旅舎賄料百日分  
但一日金六圓宛

金千圓  
雜費用意金

改算ノ分

銀貨九百六拾六圓

金貳千貳百拾八圓

外務省ヨリ内務省へ照會

此度米國華盛頓府ニ於テ地球上一定ノ子午線零點  
并ニ計時普通ノ法方設定ノ為メ萬國公會開設可相

成ニ付我國ニ於テ右へ加入有之度旨別紙之通米國  
公使ヨリ國務卿ヨリノ回章寫相副照會有之候右ハ  
我國ニ於テモ幾分ノ關係ヲ有シ實行ノ上ハ多少ノ  
裨益可有之ト存候間右公會開設ノ期日確定ノ上ハ  
我邦ニ於テモ加入ノ方可然存候尤右公會へ特別委  
負ヲ派遣可致程ノ儀ニモ有之間敷ニ付御決定ノ上  
ハ在華盛頓我公使館負ヲ以テ委負ニ被命候得ハ事  
足可申候本件ノ義ハ地理上關係ヲ有スル義ニ付前  
件ニ對シ御異存ノ有無承知致度別紙相添此段及御  
照會候也 十五年十二月二十一日

以書管致啓上候陳ハ我合衆國大統領ノ指令ニ依リ  
國務卿ヨリ拙者へ宛タル去ル十月廿三日付回章訓

公使頭 明治十六年

令寫茲ニ併緘供御一覽候

右ハ我國會ニ於テ地球上普通ノ經度零點ヲ一定シ  
萬國時刻算測ノ原位ヲ立ツヘキ子午線ヲ確定セシ  
ガ為メ追テ大統領ヨリ指定セラレヘキ時期ヲ以テ  
會議ヲ華盛頓府ヘ開設シ該會議ニ於テ我合衆國委  
負ト協議ノ為メ各國ヨリ其委員ヲ命セラレシ  
我國ト通交ノ諸國ヘ照會ノ事ヲ大統領ヘ委任シ而  
ノ此萬國會議ニハ合衆國ニテハ三名ヨリ多カテサ  
ル委員ヲ命スヘシト議決シタル趣旨ニ依リ拙者ヘ  
此訓令ニ及ハレタル次第ニ有之候

本件閣下ニ頼リ貴政府ヘ申達ニ及ヒ貴政府ニ於テ  
右萬國普通ノ時刻算測法ヲ設定候義ヲ可トセラレ  
親密ナル交際ヲ有スル開明諸國ノ利益ヲ進ムル適

宜ノ方法ト御思考相成候ハ、我國大統領不遠指定  
スヘキ時期ニ開設ノ右萬國會議ヘ加入ノ招請ヲ御  
承諾可相成哉否承候様特別ニ拙者ヘ指令有之候就  
テハ可相成速ニ何分ノ御回答相成度此段得貴意候  
敬具

千八百八十二年十二月七日

米國特命全權公使 ジョン・エ・ビンガム

外務卿井上馨閣下

別紙回章

去ル八月三日大統領ハ左ノ通りナル國會ノ決議ヲ  
認可セリ

北米合衆國々會上下兩院ノ會議ヲ以テ左ノ議決ヲ  
ナス

地球ノ普通ノ經度零點ヲ一定シ萬國時刻算測ノ原  
位ヲ立ツヘキ子午線ヲ確定センカ為メ追テ大統領  
ヨリ指定セララルヘキ時期ヲ以テ會議ヲ華盛頓府ヘ  
開設シ該會議ニ於テ我合衆國委員ト協議ノ為メ各  
國ヨリ其委員ヲ命セラレントテ我國ト通交ノ諸國  
ヘ照會ノ事ヲ大統領ヘ委任シ而シテ此萬國會議ニ  
ハ合衆國ニテハ三名ヨリ多カラサル委員ヲ命スヘ  
シ  
夫レ時刻算測ノ方法タル星學上ニ於ルノ外ハ未ダ  
今日ニ一定普通ノ原位アラサルヲ以テ今時ノ商業  
上不便甚ク甚シトセス然リ而シテ電線ノ架設鐵道  
ノ建築愈々普及ヲ致シ各自大ニソノ時刻算測ノ度  
ヲ異ニスル所ノ各國互ニ相聯絡スルノ今日ニ至テ

ハ其不便ヤ殊ニ甚シ是ヲ以テ普通ノ經度ヲ一定ス  
ルノ議ハ己ニ既ニ數年前ヨリ當國及ヒ歐洲ニ於テ  
モ商業者並ニ理學者輩ノ説ク所ニシテ萬國相約シ  
テ原位ヲ一定スルノ必要タルハ世論ノ現ニ公認  
スル所ナリ而シテ先キニ歐洲ニ開設セル會議ニ於  
テハ發論者アリテ地勢東西ニ廣クシテ鐵道ノ電線  
ヲ通スルノ最モ長キハ米國ヲ以テ世界第一トナス  
カ故ニ此緊切ノ件ヲ議スル為メ萬國結約ヲ促カス  
ハ米國首唱シテ發議スベキノ説大ニ賛成ヲ得タリ  
大統領ニ於テハ全地球上普通ノ時刻算測法ヲ一定  
スルノ有益タルヲ確信セラルト雖先ツ今日ノ  
所ハ前述ノ目的ヲ以テ萬國會議ヲ開設スルノ良否  
ヲ各國ニ謀リ決定セント欲スルニ在リ故ニ右會議

開設ノ良否ニ付豫メ重在タル各國政府ノ意見ヲ了知スル迄ハ時日ヲ期シ會議ノ開設ニ招請状ヲ發スルコトヲ見合ハセラル、ナリ

仍テ大統領ノ命ニ付本件ノ儀外務卿ヲ經由シテ日本政府へ申達シ一定ノ時刻算測法ヲ採用スルヨリ生スヘキ開明諸國間ノ親密ナル交際上ノ利益ニ付テ該政府我政府ト意見ヲ同フシ遠カラス開設スヘキ萬國會議ニ加入ノ招キニ應ゼラルベキギ如何ヲ問合セラルベシ

此書ノ寫ヲ以テ外務卿へ差出サル、モ可ナリ該政府ノ意見可成速ニ報道アル様依頼セラルヘシ

米國華盛頓府ニ於テ地球上一定ノ子午線零點及計時普通法確定ノ為公會相開候ニ付右へ加入并

ニ委員派出ノ意見書

謹テ字内ノ形勢ヲ察スルニ昔者人文ノ未タ開ケサルヤ山海ノ跋渉特ニ帆船車馬アルノミ故ニ各所其時刻ヲ異ニスルモ敢テ其不便ヲ感ゼザリキ今ヤ學術工藝ハ勿論萬般ノ事日月ニ改良ヲ加ヘ漸ク方隅獨據ノ陋見ヲ祛リ專テ世界共同ノ利便ヲ開カントス此ニ於テ陸ニ汽車アリ海ニ汽船アルノミナラス電線全ク地球ヲ一周シテ天涯地角恰モ比鄰ノ如シ然ルニ今日ニ在テ尚ホ各地本初子午線及計時方法ヲ異ニシ學術商業上ニ幾多ノ不便ヲ有スルハ開明世界ノ一大缺典ト謂サルヘカラス米國政府此ニ見ルアリ今回ノ發議ニ於テ地球上一個ノ子午線ヲ撰テ本初子午線ト定メ之ニ基テ副子午線二十二個ヲ

全地球ニ排列シ各國ヲシテ時刻ノ起算ヲ全一ナラシメ万国普通ノ標準時刻即チ通世時ヲ新定シテ以テ時刻ニ關係アル學術航海商業上ニ對シ世界一般ノ進益ヲ圖ラント欲ス宜シク該公會ニ加入シ開明諸國ト共協議シ共同ノ利益ヲ受ザルヘカラザルナリ

今先ツ本初子午線并ニ副子午線新定ノ件ヲ陳述スヘシ夫レ本初子午線ナルモノハ元來固定ノ者ニアラスシテ地球上何レノ地ヲ論セス随意ニ之ヲ定ムルヲ得ヘシ故ニ現今歐米諸州ニ於テモ英國ハ綠威ヲ用ヒ佛國ハ巴里ヲ用ヒ獨國ハ柏林ヲ用ヒ米國ハ華盛頓ヲ用ル如ク各國任意之ヲ定メテ經度ヲ起算ス故ニ航海ニ必要ナル海圖海曆ノ如キモ各自其經

度ノ初起ヲ異ニスルヲ以テ英國ノ海圖ト佛國ノ海圖ヲ比較シ又ハ英曆佛曆トヲ對照スルトキハ各改算ノ勞アルヲ免カレス是皆一定ノ本初子午線ナキニ起因シタル不便ニシテ天文地理航海ノ諸術ニ於テモ之カ為メ徒ニ混乱煩勞ヲ生スルハ洵ニ名状スヘカラサルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ今回米國ノ發議ノ如ク地球上唯一ノ本初子午線ヲ撰定スルトキハ前述ノ不便乍チ一掃スヘシ是レ本件ノ必ズ贊成スヘク且此公會ニ加入セサルヲ得サル所以ナリ

次ニ萬國普通標準時刻即チ通世時ヲ新定スルノ件ヲ陳述スヘシ夫レ今日用フル處ノ民間時ナルモノト太陽運行ノ平時即チ子正ヨリ午正ニ至ル十二時ヲ以テ午前トシ午正ヨリ復夕子正ニ至ル十二時ヲ

以テ午後トシ午前午後ヲ合セテ一日トス而シテ天文時ニ用ル者ハ午正ヨリ午正ニ至ルヲ以テ一日トス故ニ天文時ヲ以テ民間時ニ比スレハ半日ノ差ヲ生ス加之現今ノ時刻ニ從ハ各地皆全一ナラス例ハ東京ノ正子即午後十二時ハ長崎ニテハ午後十一時二十分余ニ當リ函館ニ於テハ午前零時四分ナルカ如シ故ニ東西相距ノ各地ニ於テハ間々一日ノ差ヲ生シ之レカ為メ或ハ月ヲ前後ニシ或ハ年ヲ左右スルノ事アルヲ免カレス試ニ汽車ノ時刻ヲ以テ之ヲ例センニ英國ニ在テハ固ヨリ自國ノ時ヲ用ヒ僅ニ一海峡ヲ渡テ佛國ニ入レハ亦其時刻ノ時ヲ用ルヲ以テ旅行者高業者ノ不便ヲ致ス多シ況ンヤ米國ノ如ク廣濶ナル方域ニ在テハ時刻ノ差異ヨ

リシテ往々衝突ノ禍害ヲ惹起スルヲアルヲ以テ現ニ特別時刻ヲ設ケテ以テ列車駛行ノ安全ヲ保ツト云ヘリ電信時刻ノ如キモ亦然リ我國ニテ電信ヲ發スルトキハ我國ノ時刻ニ從ヒ英國ニテ電信ヲ受取ルトキハ英國ノ時刻ニ依ル故ニ西ニ發スルモノハ時トシテハ一日ヲ遅クシ東ニ發スルモノハ時トシテハ一日ヲ早クスルノ差異アリ迅速ナル汽車電信アルモ之ニ伴フ時刻ノ改變ナケレハ亦一分ノ不便ヲ除去スル能ハス故ニ旅行通信運輸等ニ関スル諸事ニハ意外ノ混乱ヲ醸生スルヲアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ今回米國ノ發議ノ如ク萬國普通ノ計時方法ヲ設定シ果シテ之レヲ舉行スルニ至テハ前陳ノ紛乱全ク消散シテ天下公衆ノ便益顧フニ甚カテサル



ハシ況ニヤ天文及氣象諸學ノ如キ苟モ萬國全一ノ時刻ヲ得ハ彼此其結果ヲ比較シ易ク其便否如何ハ識者ヲ俟ズシテ明カナリ然則本件ノ如キモ亦最モ賛成スヘク且ツ公會ニ加入セサルヲ得サル所以ナリ

右ニ述ブル所ノ二件ニ於テ既ニ公會ニ加入セサルヘカラサルノ理由ヲ晰説セシヲ以テ左ニ又委員ヲ派出セザルヘカラサルノ所以ヲ陳述セン夫レ米國公使ノ照會スル處ニテハ未ダ本件方法ノ如何ヲ詳ニスルニ由ナシト雖モ一千八百八十一年九月二十一日伊國ウユニスノ萬國地學公會ニ於テ米國ノ代議士「ガント」フオルトフレミング氏ノ本初子午線一定ノ演説ニ從ヘハ萬國普通ノ標準時刻ナルモノハ

開明諸國ノ是認スル一處ニ於テ先ツ本初子午線ヲ撰定シ太陽此子午線ヲ經過シテ再ヒ之ヲ經過スルノ間ヲ以テ一日ノ午時即チ二十四時トシ此一日初時即チ零時ハ太陽初ノテ其子午線ヲ經過スルノ時ニシテ此零時ヲ公時トナシ而シテ此本初子午線ヨリ西徑每十五度ニ副子午線ヲ置キ通計二十四個ノ子午線ヲ定メ順次ニ之ニABC(英國ノ二十六字ノ内)Dヲ除ク等ノ符号ヲ施シ以テ各地ノ時刻ヲ知ラシムルモノトス試ニ英國綠威ヲ以テ本初子午線トシ西徑十五度毎ニ副子午線ヲ置クノ比例ニ依リテ之ヲ計フレハ則チ其日時ナル副子午線ハ播磨攝津ノ間ニアルヘシ假令他ノ地ヲ以テ本初子午線ト定ムルモ我國ノ形狀東ヨリ西ニ至ルノ距離三十

度以上ニ亘レルヲ以テ何レノ地方ニ於テカ一個若クハ二個ノ子午線ノ經過ニ係ルヘシ若シ我國ヨリ委員ヲ派出セスニ他國議員ノ議定ニ放任スル如キアラハ全會ノ衆論上ヨリ儻クト我國至便ノ地ニ定メラルヘキ本副子午線ヲシテ不便ノ地ニ移サレ我國ノ域内ニ設ケラルヘキ標準點ヲシテ或ハ他國ニ設ケラルノ憂ナシトセス果シテ然ラハ其我國永遠ノ利便ヲ失スルヲ決シテ鮮少ニアラス故ニ必ス適當ノ委員ヲ派出セザルヘカラサルナリ議者或謂ハン我國現今ノ形勢ニ於テハ仮令本件ヲ賛成スルモ遠ニ著シキ便益ヲ見ルニ至ラス故ニ目下ノ急務ニアラスト然レトモ我國今日ノ進歩ヨリ之ヲ推思スルニ久シカラスシテ航海商業ハ勿論諸學術ノ愈

隆盛ナルニ從ヒ本議ノ果シテ便益ニ感スルハ必然ナレハ我國ニ於テモ成ルヘク數委員ヲ派出シカメテ利害得失ヲ辨論セサルヘカラス若シ然ラスシテ之ヲ他國ノ論議ニ一任シ永遠我國ニ享有スヘキ利便ヲ拋棄スルトキハ恐クハ憾ヲ後人ニ遺シ千載ノ下猶駁議ヲ免カレサルヘシ故ニ我曹ハ我政府ノ断然之ニ加入シ之ヲ賛成シ委員ヲ派出セラル、ヲ以テ必用ナリト信ス

内務省委負

内務省御用掛荒井郁之助

内務省御用掛塚本明毅

内務省御用掛小林一知

陸軍省委負

明治十六年

明治十六年二月十七日

陸軍工兵中佐小菅智淵

海軍省委員

海軍大尉磯野 健

文部省委員

大學教授菊池大麓

農商務省委員

農商務省御用掛大川通久

一千八百八十一年

ウエス萬國地學公會米國代議士サントフアルトフレシク氏

新定子午線設通世日通世時議

左ノ一篇ハ一千八百八十一年九月廿一日ウエス  
スノ萬國地學公會ニ於テトロントノ加拿他學會  
及ヒ新約克氣象協會ノ代議士サントフアルトフ

レシシクニ依テ述ヘラレシモノニテ其趣意ハ新  
タニ本初子午線ヲ選定スルニ在リ

茲ニ予カ略述セントスル旨意ハ各國普通ノ本初子  
午線及零時ヲ新タニ確定スヘキヲ是ナリ

地史ヲ按スルニ古來天學者航海者ノ用ヒテ以テ起  
算子午線ヲナシタルモノ許多ニシテ則チアレキサ  
ンドリヤノ天學家トルミーノ確定シタル子午線ハ

其最古ナルモノ、一ナリ全氏ハ百年代ノ人ニシテ  
當時ニ在テハ世人以為ヘラク凡ソ人ノ住居セル部  
分ハ唯々地中海近傍ニ限レリト其後漸ク地理學開

ケ著名ノ地學者輩出スルニ及ンテ各々更ラニ起算  
子午線ヲ選定シ是ニ基キテ經度ヲ算シタルモノ枚  
舉ニ違アラス而シテ其等ノ地學者ハ皆自國ノ首府

或ハ司天臺ノ如キ著明ノ位置ニ於テ之ヲ定ムルヲ  
 通規トセリ是レ後世ニ至テ子午線ノ數大ニ増加シ  
 タル原因ナリ然ルニ近年ニ至リ各國ノ往來頗ル便  
 利ヲ得随テ交際日ニ繁ク茲ヲ以テ起算子午線ノ衆  
 多ナルハ不便ニシテ且ツ無益ナルヲ悟リ乃チ數年  
 前ヨリ其數ヲ減少セントノ議論起リタリ既ニアン  
 トウエルプ及巴黎ノ地學公會等ニ於テ皆是ヲ議シ  
 諸ノ協會ヨリモ種々其意見ヲ發シタリ然レモ各國  
 普通ノ本初子午線ヲ新クニ選定スヘキ件ニ就テハ  
 終ニ衆議ノ合同ヲ得タルヲ無シ又各國ト協議シテ  
 從來ノ子午線中ヨリ其一線ヲ拔選シテ是レテ本初  
 子午線ニ定メントセシテ屢々ナリ然レモ此發議タ  
 ル各國ノ人心ヲ感動シテ却テ其目的ヲ達スルノ障

碍トナレリ又從來ノ子午線ニ據ラスシテ全ク新ク  
 ニ本初子午線ヲ定メントノ議題ハ他ニ甚ク不都合  
 ナルヲアリテ是亦今日マテ空シク過キタリ  
 起算子午線ヲ普通同一ニスレハ其利益トスル所地  
 理天文航海ノ諸學ニアリトサレタリ其論辨固ヨリ  
 然リトスルモノニテ予ハ世界普通ノ本初子午線ヲ  
 確定スヘキ他ニ尚ホ道理アルヲ示シ以テ諸君ノ考  
 按ニ供セントス

今若シ全地球ニ就テ考フルトキハ正午、中夜、日出、日  
 没ノ諸時刻及其中間細分ノ時刻皆同一ノ時ニアル  
 トトナレリ現今電線ノ架設日ニ盛大ニ趣キ全地球  
 ヲ覆フテ蛛網漸次擴張セル故ヲ以テ開明諸國ニ於  
 テハ其同一ナルヲ實驗スルニ至レリ蓋シ電線ノ架

設ハ各地互ヒニ遠隔セルモ其通信ニ於テ毫モ時間ヲ費スヲナク晝夜ヲ異ニスル兩地モ是ヲシテ隣接セシムルモノト云フヘシ故ニ現今用フル處ノ時刻ノ制ニテハ混雜ヲ生シ總テ時刻ヲシテ紛乱セシムルナリ現今ノ制ニ從ヘハ各地ニ於テ太陽南中前十二時ヲ以テ其日ノ初メトシ十二時後ヲ以テ同ク終リトス而シテ地球ハ絶ヘス自轉シテ寸時モ止ムヲナキヲ以テ毎瞬間時必ス太陽ノ南中セル地アリ故ニ各地悉ク一日ノ始終ヲ異ニシテ其數極リ無ク唯々金子午線ニ在ル諸處ハ日ヲ全フスルノミ其他ハ皆是ヲ異ニシ且ツ其差違固ヨリ一様ナラサル故一事ノ起ルアリテ其時刻ヲ示サントスルトキハ必ス不都合ヲ生スルニ至ルナリ但シ電線ハ起事ノ正確

ナル本地時刻ヲ報スヘシト雖且子午線ヲ異ニスル各地ノ時刻トハ悉ク一致セサルナリ故ニ一起事ノ時刻ヲ各地ニ電報スルモ或ハ是ヲ前日トシ或ハ翌日トスルノ地アルヘシ又月末或ハ年末ニ當リ其翌月或ハ翌年ニ移ラントスル頃ニ於テ一起事ノ時刻ヲ報スルアルトキハ土地ニ依テ月ヲ異ニシ或ハ年ヲ異ニスルコトアリ

斯様ノ時刻ノ制定ハ學術上ニ最モ適セス且ツ紛乱ヲ生スヘキモノニテ多少疑惑ノ生スルアルヘク後來交際上及商業上ニ頗ル混乱ヲ生スヘク歴史上重大ノ誤謬ヲ生スヘク爭論ノ起ルニ至ルヘク其他種々ノ困難アルニ至ルヘシ備又現今ノ時刻制定ニ從フトキハ或地ノ時刻ヲ記スルニ必ラス其地ノ位置

ヲ確示スルヲ以テ緊要ナリトス否ラサレハ他處ニ於ケル其同時ヲ確知スル能ハス故ニ此制定クル迅速ノ交通法愈ヨ開ケ各國各處ノ時刻ヲ比較シテ彼是同一ノ時刻ヲ一般須要トスル時ニ於テハ極メテ不便煩勞ナルモノニテ逐次必ラス經度差ヲ加減スル如キ迂遠方法ノ為メ通世ノ事業ヲ遲緩ナラシムルハ明白ナリトス

此不便ヲ避クルニハ萬國普通ノ時刻ヲ制定スルニ若クナシ是レヲナスニハ特殊ノ子午線ヲ選定シテ是レヲ零時ノ線トシ而シテ地上各地ノ時刻ハ悉ク此子午線ヲ以テ準據トスルニ在リ且ツ此零時ノ子午線ハ即チ本初子午線トシテ經度ヲ起算スルニ萬國皆是レヲ通用スヘキモノトス

分類

茲ニ又普通子午線ノ選定ヲ急速緊要トスル特殊ノ理由アルヲ述フヘシ但シ予ハ北米ノ景情ヲ熟知シアルヲ以テ該國ニ就テ而已是レヲ說ントス然レトモ其說タル恐ラクハ他ノ諸國ニモ皆適スヘキナラシ

米國ニ於テハ輻道電線ノ設立既ニ廣大ニシテ交際商業ノ道大ニ開ケ史上未タ見サル處ノ隆盛ナル景況ヲ顯出シタリ而シテ各地ノ距離ト時刻トノ關係ハ往時ト是ヲ殊ニシ從來ノ時刻ノ制ニテハ其用ニ違セス則チ或ハ混乱ヲ生シ空シク時刻ヲ費シ旅行商業上ノ準備ヲ乱シ或ハ往々人命ヲ害スルニ至リ其他種々ノ不便ヲ生セリ概スルニ廣ク蒸氣及電氣ヲ用ヒテ迅速交通ノ自在ニナリタル世ニ於テハ萬

事ニ適セサルモノトス故ニ普通子午線ヲ選定スヘキ議題ハ公衆一般ノ一大緊要事ナリ而シテ最モ簡單善良ノ法方ニ依テ商業及交際上ノ不便ヲ除カントスルニ至リシナリ

現今猶ホ所用ノ時刻ノ制度ハ五十年前ニ在テ電信法未タ開ケス發動力ニハ專ラ馬ヲ使用セシ世ニ於テハ毫モ差支ナシトス而シテ其割タル各處其地ノ大陽南中經過ニ依テ時刻ヲ定メ其南中時前十二時間ヲ午前トシ南中時後十二時間ヲ午後トシ前後ヲ合シテ則チ一日トス故ニ經度ヲ異ニスル地ハ悉ク一日ノ初起ヲ別ニシ必ス其地限リノ時刻アリ依テ其異同時刻ハ衆多極リナシトス

北米ニ就テ論スレハ此大州ハ甚タ廣濶ニシテ經度

百五十度間ニ連亘ス故ニ此東西兩端間ニハ數千ノ子午線ヲ畫スルヲ得ヘク從來ノ法ニ從ヘハ數千個所ニ於テ各々皆時刻ヲ異ニスルモノナリサレハ輻道管理局ニ於テハ最モ不便ヲ極メ已ムヲ得ス遠長線路ニ付テハ其通過スル各所ノ時刻ニ関セス各々特別ノ時刻ヲ設ケ是レヲ用ヒテ稍々列車駛行ノ安全ヲ保ツトセリ而シテ其特別時刻ハ亦數多ニシテ各々定準ヲ異ニシ合衆國及ヒ加拿他ニ用ユルモノヲ合シ少クモ七十五ニ下ラス而シテ線路ニ最近ナル主要市街ノ時刻ト間々符合スルアリト雖トモ往々是ト差違アルナリ斯ノ如キ不規則ノ制ハ是迄餘儀ナク用ヒ來リシモ愈々其不便ニ窘迫セララルニ至リタリ故ニ今ヤ普通全一ニシテ簡單ナル時刻

ノ制度ヲ設立スルハ衆庶ノ大ニ希望スル所ナリトス

故ニ米國ニテハ是ヲ改正セントシテ既ニ其處置ノ初歩ニ就キタリ而シテ加拿他學會、亞米利加氣象協會、亞米利加土工協會、亞米利加學術會及其他ノ協會皆是ニ從事セリ

今加拿他及合衆國ノ諸地方ニ於テ便利トスル時刻ノ制定ニ就テ發セラレタル意見ノ大畧ヲ左ニ掲クヘシ

- 第一 萬國普通ノ標準時刻ヲ制定シ海陸ノ交通、通常事業、全時觀測及諸學術ノ要用ニ供スルヲ而シテ此時ヲユニタリケレン通世時ト名付ヘキ事
- 第二 通世時ハ特殊ノ子午線ヲ選定シ太陽ノ是

ヲ經過スヘキ時(平均經過)ヲ以テ零時トスル事

- 第三 零時子午線ハ即チ本初子午線トシテ各國普ク是ヨリ經度ヲ起算スヘキ事

- 第四 此零時子午線ハ開明諸國ト協議ノ上其位置ヲ定ムル事

- 第五 廿四ノ副子午線即チ每時ノ子午線ヲ定ムル事但シ其逐次ノ距離十五度宛ニシテ本初子午線ヲ距離十五度ニアルモノヲ第一子午線トスヘキ事

- 第六 地球各地ノ時刻ハ惣テ副子午線ヲ標準トシテ是ヲ定ムル事

- 第七 廿四ノ標準子午線ニハ英字廿四(JVヲ除



ヲ除キヲ以テ東ヨリ西へ順次配付シ零時  
子午線ハズヲ以テ是ヲ表スル事

第八 地球上各地ノ時刻ハ其地ヨリ經度上最近  
ナル標準子午線ニ基キテ是ヲ定ムル事

第九 本初子午線ヲ太陽ノ通過シテ再ヒ是ヲ通  
過スル時間ヲヨスモホリタンデー通世日ト名付ル事

第十 通世日ハ歴史ヲシテ正確ナラシメ地球諸  
部ニ於テ行フヘキ同時觀測ニ便ナラシメ

又一般學術上ノ要ニ供スル為メ是ヲ設ク  
ルモノトス

第十一 各地ニ於テハ其地近傍ノ標準子午線ヲ太  
陽平均ニ經過セル時ノ十二時前ヲ以テ一

日ノ初起トシ十二時後ヲ以テ全ク終リト

シ而シテ其日次ハ標準トシタル子午線ノ  
符字ニ依テ區別スヘキ事

第十二 各地ロカリティ本地ノ日ヲ異ニスル數ハ減少シテ地  
球毎自轉間廿四トナルヘシ而シメ其各地

ノ日ハ現今所謂ノ各地ロカリティノ日ト同様ノ意ヲ  
以テ通常事業ニ用フヘキ事

第十三 通世日ノ毎時ハAヨリZニ至ル廿四字丁  
Vヲ除キヲ以テ順次是ヲ表シ毎時子午線

ノ番号ト各々符合セシムル事仮令ハ太陽  
G或ハNノ子午線ヲ線過スル時ハ平均行

第十四 各地ノ日ハ毎時十二時ニ二分スルヲ廢シ  
凡テ一時ヨリ廿四時マテ連次數フヘキ事

否ラサレハ中夜ヨリ正午迄ノ十二時ヲ現  
今ノ如ク第幾時ト唱ヘ正午ヨリ中夜迄ノ  
十二時ハ各々通世時ト符合スル字号ヲ以  
テ表スル事

第十五 通世日ニ於ケル如ク本初子午線ヨリ直チ  
ニ起算シタル時刻ゴスモギリクシム通世時ト唱フル事

第十六 各地ノ時刻ハ其地ニテ標準トナシタル子  
午線ニ依テ是ヲ示ス事仮令ハB号ノ子午  
線ヲ標準トナシタルトキハBノ標準時ト  
示スカ如シ

第十七 各地ノ標準時刻ハ其政府ニテ之ヲ定メ廣  
告スヘキ事

第十八 主眼ノ市域市街ニハ各々一個所ノ時刻信

号所ヲ建設シ中央司天臺ト電線ヲ相通シ  
テ公衆ニ示スヘキ精密ノ標準時刻ヲ得ル  
ヲ便ナラシムル事

第十九 各々時刻信号所ニハ自動器械ヲ備置キ報  
時球ヲシテ自カラ落下セシムル如ク装置  
スヘキヲ或ハ其他ノ法方ニ依テ毎時若ク  
ハ更ニ屢々標準時ヲ衆庶ニ報スル事

第二十 輸道用及公衆用ノ時計ハ総テ時刻信号所  
ヨリ電線ニ依テ比較調査スル事

右ハ意見ノ概畧ニシテ斯ク通世時ヲ制定スルトキ  
ハ既ニ示シタル諸ノ不便ヲ避ルハ固ヨリ容易ニシ  
テ即テ経度ニテ甚ク隔絶スル兩地モ互ヒノ時刻ハ  
只々全幾時ヲ違フノミ其他ニ就テハ何レノ経緯度

ニ在ル地モ皆其標準時刻ハ全ク一致スルモノナリ  
而シテ地上各地ノ時計ハ皆其地ノ第何時ヲ一齊ニ  
報スルノ理ニシテ分秒ノ數ハ全ク全數全刻ヲ示ス  
モノトス  
既ニ陳述シタル制ニ從フ片ハ現今ノ如ク日次ニ紛  
乱ヲ生スルヲナク各地ニ於テ唯々廿四ノ日次アル  
而已且ツ其差ハ皆一定ノ數ナリ且ツ悉ク本初子午  
線ニ準據シタル太陽ノ位置ニ從フモノニテ又各地  
ノ日ニハ其地ニテ標準トナシタル子午線ノ記号ヲ  
以テ是ヲ區別スルモノ故現用時刻ノ制ヨリ生スヘ  
キ紛乱或ハ曖昧ナルヲハ全ク跡ヲ絶ツモノトス  
前述ノ如キ制定ハ米國ニ於テハ目下必要トスル所  
ナリ而シテ各國普ク是ヲ採用スル片ハ一般人民ノ

便利ヲ増スハ決シテ疑ヒ無シトス是ヲ採用セント  
スルニハ先ツ世界普通ノ起算子午線ヲ撰定スルニ  
在リ依テ是カ為メニ決定シタル左ノ條々ヲ以テ諸  
君ノ考按ニ供セントス

第一 經度ヲ起算スヘキ子午線ヲ普通全一ニス  
ルハ地理、航海ノ學術上ニ頗ル要用ナルモ  
ノトス

第二 世界普通ノ零時子午線ヲ撰定スルハ時刻  
ノ計算ヲシテ一般同一ナラシメ且正確ナ  
ラシムヘキ便利ヲ大ヒニ進ムルモノトス  
第三 普通子午線ヲ選定シ及時刻ノ制度ヲ建ツ  
ル為メ開明諸國互ヒニ協議合全スルハ一

般人民ノ為メ甚ク希望スヘキトス

第四 各國政府ハ各々適宜ノ議負ヲ撰舉シテ是  
ヲ派遣シ以テ此事件ノ商議ニ與ラント欲  
スルヤ否ヤヲ問フ為メ當萬國公會ノ開場  
後直チニ其旨ヲ萬國政府ニ通告スヘキト  
トス

第五 當萬國公會ニ列シタル米國代議士ノ意見  
ニ隨ヒ各國政府ヨリ派遣サルヘキ代議士  
ハ華盛頓府ニ集會シ而シテ其議場ノ開日  
ハ千八百八十二年五月第一日曜日ヲ以テ  
スヘシトス

第六 左ニ列スル人々ハ右代議士集會ニ要用ナ  
ル整頓ヲナシ且此諸條ノ目的ヲ達セシム  
ル為メ便宜ノ處置ヲ施スヘキ所ノ事務委

負ナリトス而シテ是ニ係ル通信ハ都ヘテ  
華盛頓府陸軍局ノ氣象課長ゼネラル、ダブ  
ルユー、ビー、ヘーゼン氏ニ向ケテ送致スヘ  
キモノナリ

新約克 亞米利加氣象協會長

トクトル、エス、エー、ポールナルト

華盛頓 合衆國陸軍土工隊

カピテン ジョージ、エム、ホサーラル

新約克 亞米利加地學協會長

チーフ、ジョステース、デーソー

華盛頓 上等裁訟局

ジョステース、フ、ワールド

新約克 亞米利加地學協會副長

華盛頓 氣象課長  
ゼネラル、ジー、クブルユー、コルロム

新約克 亞米利加地學協會  
ゼネラル、ダブルユー、ビー、ハーゼン

華盛頓 陸軍信号局  
ジユツジ、ローボラー

新約克 亞米利加地學協會  
プローフエツソル、クレーウラントアツビー

波斯敦 亞米利加工學協會長  
デーウ、ワット、タズ、ニーフ、ワールト

トロント 大學校長  
ジエームス、ビー、フランシス

ドクトル、ダミール、ウ、ワールソン

トロント 加拿他學會長

ジョン、テングトン

オトウ 加拿他ク、ワニス、大學校尚書

サント、フアルト、フレシング

第七 右ノ條々ハ意大利政府ニ依頼シテ各國政府ニ通知サルヘキモノトス

種々討議ノ後公會委員ハ適宜報告セント合同シテ而シテ左ノ草按ヲ記載シタリ

經度ニ関シ及殊ニ時日ニ関スル起算子午線ノ選定法ヲ議スルタメ各國政府ハ壹個年内ニ議負ヲ命ス

ヘシ其議負ハ量地學者地理學者及高事代議者等ノ如キ學識アル者ヲ以テシ而シテ各政府ニテ命スル

所三名宛ニテ可ナルヘシ此趣意ハ伊太利地學協會

長ニ委托シテ全氏ヨリ同國政府及各國地學協會ニ  
最初通知サルベク且ツ同氏ハ前記諸條決定ノ目的  
ヲ實施スルニ緊要ナル所置ヲ行フヘキトス又陳  
述ノ萬國公會ハ亞米利加代議士ノ意見ニ隨ヒ華盛  
頓ニ於テ開場アランヲ希望ス

華盛頓公會江委員派出之義ハ他  
ノ會議ト違ヒ其學ニ研究アル者  
ニ非サレハ出會スルトモ其益ヲ  
見ル丁能ハサルヘシ況ヤ子午線  
規定ハ世界中ノ一問題ナレハ此  
會中ノ議論ハ詳細聞知スルヲ要  
ス付テハ多人數派遣相成ニモ及

フ間敷候得共菊池大麓ハ從來天  
文學ニ志深ク各人ノ押ス所ナレハ  
同人壹人犬ヶ特別派遣相成度候

頭義 佐々木

白 福岡 大木 松方

壹人派遣之費額

- 一 銀貨九百六拾六圓
- 一 金貳千貳百拾八圓

華盛頓公會へ派出員ノ事ニ付御  
申越之趣閱悉致候乍然學術上得  
ベキトコロノ利益ハ彼ノ報告ヲ  
得候ヘバ充分被存候得共愈派出

致方可然ト之御見込ニ候ハ、別  
段異議無之候右及御回答候敬具

三月十六日

井上

山田様

福岡様

外務省へ達

今般米國華盛頓府ニ於テ地球上一定ノ子午線設定  
ノ為ノ萬國公會開設ノ節加入可致ニ付同國政府へ  
通牒方可取計此旨相達候事 十六年三月十九日

第二局議按

別紙農商務省外四省連署伺米國華盛頓府公會委員  
派遣ノ義ヲ按スルニ該件ハ我邦ニ於テモ幾分ノ関  
係ヲ有シ實行ノ上多少ノ裨益可有之ニ付加入相成

候方可然尤外務省意見ノ次第モ有之候得共右事項  
ハ專ラ學術上ニ関シ候事故應當ノ者ニ非サレハ辨  
理難致義モ可有之ニ付委員一名派遣相成可然哉第  
一局合議左按ヲ具シ仰高裁候也 十六年三月十九日  
大藏省通牒